

アキラくん、 カッコよさをきわめる



「ツン子ちゃん、おとぎの国へ行く」外伝



大島加奈子 絵
松本祐子 作

アキラくんは小学校三年生、美しいものが大好きです。カッコよく生きるにはどうすればいいか、いつもそのことばかり考えて頭をなやませています。

絵を描くのがとくいで、小学生とは思えないほどおしゃれなアキラくんは、赤いくつやピンクのシャツもじょうずに着こなすことができますが、アキラくんにとってのほんとうのカッコよさとは、見た目より中身、自分なりの〈美意識〉をもって生きているかということです。

「子どものくせに〈美意識〉とかいっちゃって、自分のしやべってることの意味わかってるのかしら？」

二千五百年以上もむかしの中国のえらい人、孔子こうしさまのお言葉を集めた『論語』をすらすら暗唱するようなアキラくんは、お母さんはたびたびついていけないのです。

大事なひとり息子が地球侵略をもくろむエイリアンに頭の中をのっとられてるんじゃないかと本気で心配し、お父さんに笑われていました。お父さんは、ちっとも子どもらしくない息子の変人ぶりをおもしろがっていました。

アキラくんは小柄で、目はどっぴりぎみ、眼鏡のぶあついレンズのせいで、よけいギョロ目に見えました。あまりカッコいいとはいえませんが、だからこそ、おしゃれのしがいがあるのです。向上するための努力は美しい。けれど、じたばた努力しているところを人に見せるのは美しくない。アキラくんの〈美意識〉は独特で複雑です。

アキラくんと同じぐらい変わっている子がクラスにもうひとりいました。水原月輝みずはらつき子は思ったことをなんでも正直に口にするので、まわりから完全に浮いています。くるく